

歴史民俗資料館だより

龍吐水りゅうどすい

(消火水鉄砲)

昔から、私たちの生活を脅かすものは、地震・雷・火事・おやじとことわざで言われてきました。なかでも火事による被害は、すべてを燃え尽くし生活の基盤を根底から滅ぼす恐ろしいものです。私たちが町にも、過去の大きな火災やそれにまつわる悲しい出来事が数々語り継がれています。

この恐ろしい火災に対する備えとして、用水をいれる防火桶・防火用水池などがありました。また、江戸時代中期になると消火の新兵器として「龍吐水」という水鉄砲式の消火ポンプが登場しました。

この「龍吐水」は、木製の手押しポンプの一種で、おもちゃの水鉄砲を大きくしたようなものです。放水するところから、龍が水を吐くように見えることからこの名がついたと言われます。

起源については、享保年間

(一七二一六一三六)にオランダから渡来したという説と、宝暦四年(一七五四)長崎で作られたという説や久留米(福岡県)の住人が作ったなどの諸説があります。

寛延元年(一七五二)江戸では、町年寄が名主の代表を集めて「近ごろ龍吐水という消火道具が売りに出されているが、消防のためによろしいようにみえるから、町火消一組に四つ五つ備

えるようにしてはどうか」と勧めています。これにより、すでにこの時期には、龍吐水が作られ、その威力も知れわたっていたことがわかります。

明和元年(一七六四)には、江戸町火消に、はじめて官給されるなど短期間で全国に広まったことが知られています。

火消ポンプといっても消火能力はあまりなく、纏持ちや纏に水をかけたり、飛び火による延焼を防ぐのに役立つ程度でした。

明治十七年(一八八四)には国産の腕用ポンプが量産されたり、外国製の人力ポンプが普及し、龍吐水は一線から姿を消しました。

資料館では、歴史的資料として、「東京浅草花川戸龍吐水師、山口久兵衛明治九年六月求之 代価九十銭」と刻まれている龍吐水を展示しています。



吊り手水器ちようすきを探しています



ごみ減量化コーナー



●マイバックを持参しましょう！

使うつもりでためておいたレジ袋を、使わずに捨ててしまいませんか？レジ袋1枚では5グラムにも満たないかもしれませんが、買い物の際にマイバックを持参することによって、その5グラムは確実に減量できます。

マイバック愛用者の声

簡単なごみ減量運動を始めようと、マイバックを利用するようになりました。

利用してみると、レジが終わったら、品物をカゴから袋に詰め替える必要がなく、手間もはぶけ、すぐに帰れるので時間の節約にもなっています。



1人一日100グラムごみ減量運動実施中

たった100グラムの減量でも、全市民で取り組めば、家庭から出るごみを、年間810トン・約2割減らすとができます。